

第1回 長野県 ICT 学び推進協議会 議事録

R4. 5. 25

学びの改革支援課

1 日 時

令和4年5月25日（水） 13:30～15:00

2 実施方法

Web 会議による

3 参加者

【信州大学】東原特任教授、島田教授、佐藤准教授（欠席）、両川公認心理士
【長野市立長野中学校】千野副校長 【上田市立第六中学校】藤井校長
【佐久市立野沢中学校】松島校長 【塩尻市立木曾楢川小中学校】山本校長
【須坂市立東中学校】北原教諭 【長野市立朝陽小学校】舞澤教諭
【佐久市立中込中学校】瀬下教諭 【塩尻市立広丘小学校】波場教諭
【千曲市教育委員会】高松様 【須坂市教育委員会】田川様
【長野市教育委員会】中田様 【佐久市教育委員会】菊池様
【松本市教育委員会】小川様 【塩尻市教育委員会】島津様
【伊那市教育委員会】中山様 【飯田市教育委員会】櫻田様
【小海町教育委員会】中島様
【学びの改革支援課】曾根原課長、臼井義務教育指導係長
【北信教育事務所】清水指導主事 【東信教育事務所】橋爪指導主事
【中信教育事務所】池田指導主事 【南信教育事務所】保坂指導主事
【総合教育センター】中村専門主事、五味専門主事
【DX推進課】犬飼企画幹
【長野県自治振興組合】大塚様
【県教委】箕田主任指導主事、松坂指導主事、荒井指導主事、山際指導主事、畠山主査

4 内 容

(1) 開会あいさつ

【曾根原課長】

- ・長野県では、幼稚園から高校までの学習指導を管轄している当課に ICT 教育推進センターが設置されている。センターの事業を進めるにあたり、この会でさまざまにサジェスチョンいただいたり、先進的な事例を紹介いただくことで方向性を決めてまいった。
- ・今回は令和4年の第1回目ということになり、2代目センター長に島田教授をお迎えし、昨年度から引き続き座長として東原特任教授、有識者として特別支援で両川先生にはお世話に

なる。

- ・様々な学校から管理職、教諭、市町村教委、県庁各課といったオール長野で長野県の ICT 教育をどうしていけばよいかをまず先陣切って考えていただく、そのような会にしていいただければと思う。様々な意見を頂戴できればありがたい。

○有識者及びセンター長紹介

【箕田主任指導主事】

東原特任教授（座長）、佐藤准教授（有識者）、両川公認心理士（有識者）、島田教授（センター長）、を紹介。

○「長野県 ICT 学び推進協議会」の説明

【箕田主任指導主事】

- ・長野県の義務教育の ICT を活用した新たな学びへの取組
センターでは、国や県の方向性の共有、先進的な事例の共有・普及を目的とし、国の動向や専門的知識をもつ有識者の方々、先進的に取り組む市町村の担当者、小中学校の方々を交え、協議会を開き、情報交換をしながら、長野県教育委員会内の部署と連携しながら長野県の市町村を支援していきたい。
- ・年間の活動見通し
本年は4回の開催を予定している。

(2) 協議（司会：島田教授）

1) GIGA スクール構想の実現に向けた最新情報と令和4年度のポイント

【東原特任教授】

- ・国の動向を二点お伝えしたい。

<学習者用デジタル教科書>

- ・今年度から全学校でデジタル教科書の体験が可能となっている。令和6年度から本格的に活用される。文部科学省でも所管が生涯学習政策局から初等中等教育局の教科書課に移り、さらに中央教育審議会の特別部会で検討されるようになった。それに備え、すべての学校が学習者用デジタル教科書を知らないというわけにはいかないため、本年度から英語+1教科のデジタル教科書の体験が可能となった。
- ・昨年度は同時共同編集がキーワードだったが、今年度はその継続に加えデジタル教科書が使っていけるように皆様のご協力いただきたいし、私も協力していきたい。文部科学省からも実践事例集が出ており、YouTubeでも動画で紹介している是非ご覧いただきたい。

<校務支援システム>

- ・GIGA スクール時代の校務支援システムがどのようにあるべきかの議論が進んでいる。
これからはクラウドを使っていきたいという流れ。クラウドで出来ることはクラウドで

行い、全てを統合型校務支援システムでやらなくてもよいのではということ。

- ・結果的に同じシステムになることもあるが、クラウド化への検討に向けて準備が必要となってくる。

2) 令和4年度目標案の提示

【箕田主任指導主事】

令和4年度目標

「子ども達全員がクラウドによる同時共同編集により意見交換ができる」

- ・令和3年度は同時共同編集を体験をするといことも含めて考えていたが、昨年度末で9割程度の学校が体験するということができた。「ICTを活用する」から「クラウドをどのように活用するか」に大きく変わってきている。そのため今年度はクラウドによる授業改善がもう一步進むような目標を考えた。

3) 市町村教育委員会や現場の先生方より自己紹介及び取組の紹介

(取組の照会とデジタル教科書の使用状況)

【長野市立長野中・千野副校長】

- ・Teams を使って生徒たちが情報交換している。
- ・デジタル教科書は英語ではほぼ毎時間利用している。

【上田市立第六中・藤井校長】

- ・学びの改革実践校となっており、専任教員を配置して支援教室を開設し、不登校を減らすことを目指している。4月からスタートし早速数名が登校できるようになった。
- ・教室には行けなくても授業を受けたい生徒のためにリモートで授業を受けたり、先生がワークシートを作成し、それを Classroom から取り寄せて学習を進めている生徒もいる。また、Google の meet で家と教室をつないで朝の学活に参加することで生活リズムを朝方にし、登校できるようになった生徒もいる。いずれにしても ICT がなければ解決できなかったことも解決できているようになっているので引き続き取り組んでいきたい。
- ・デジタル教科書は最初の設定等困難なところがあり、どう使うかを見たことない先生がほとんどのためこれからということになる。

【佐久市立野沢中・松島校長】

- ・佐久市は全24校のICT担当の先生が集まって情報教育委員会あるいはプロジェクト委員会を開催しており、市教委、各校ICT担当、機器管理業者の三者で集まってレスポンスよく進めている。
- ・デジタル教科書についても同委員会で話題になったが、スタートしている学校、まだの学校があり、実質的にはこれから。今年度は活用ということに重点を置き、情報共有をして

いる。

- ・また、スマホ・タブレットについてのアンケートを実施しており、今年度は77全市町村参加。県教委、知事部局と連携して進めておりアンケートの結果についてご報告できるため是非お問い合わせいただければ。

【塩尻市立木曾檜川小中・山本校長】

- ・本年度小中統合し義務教育学校になった。昨年度までは小学校はロイロノート、中学校はGoogle クロームを使っていた。中学校でもロイロノートを活用し始めており、小中統合の成果が出てきている。
- ・デジタル教科書については、本日も国語の授業で使用しているのを見ており、わりと使っているという印象。

【須坂市立東中・北原教諭】

- ・本年度も学びの改革実践校に参加しており、探究型の総合学習等に全校で挑戦しているが土台としてICT 端末とクラウドを活用しGIGA を推進していければ。日々の授業改善で意識していることは学び方のパターン化、メディアリテラシーの考え方。
- ・デジタル教科書は整備段階だが須坂市が5教科のクラウド版でそろえてくれたのでこれから活用していく。

【長野市立朝陽小・舞澤教諭】

- ・今年度から音楽に加え外国語を担当。音楽ではデジタル教科書を毎回使用しており、外国語でもデジタル教科書を使用し始めている。整備が大変で5月から入り始めたがインターネット環境が不安定でロードに時間がかかったりもしている。ただ、そういうことも含めてデジタルと付き合っていくことなんだよ、と子供たちと共有しながら進めている。
- ・今年度から全校研究でICT に焦点を当てるようになり、職員で同時共同編集、クラウドの活用を始めている。

【佐久市立中込中・瀬下教諭】

- ・佐久市では各学校の代表の先生を抽出、市教委の指導主事も入って各校の相談事を共有し、市内で統一して進めている。市全体で統一したフォーマットがあるのはやりやすい。画面管理どうしているかを教えていただければ。
- ・デジタル教科書はまだそれほど活用できていないと思われる。

【塩尻市立広丘小・波場先生】

- ・先生も生徒もiPad を普段使いしており、自身もすべての教科でiPad を使っている。塩尻市は指導者用のデジタル教科書が整備されており使い勝手が良い。

- ・クラウドの活用や同時共同編集はまだ進められていないところがあるため、今年度進めていければ。またどのように活用すれば効率的か、普段使う上でのルールやマナーについてどうすればよいか子供たちと一緒に進めていきたい。

【須坂市教委・田川指導主事】

- ・今年度クラウド版のデジタル教科書を全小中に入れている。ただネットワークにつながりにくい、タブレットの故障等の課題もありそのあたり対応していく。

【長野市教委・中田指導主事】

- ・通信環境の強靭化、クラウド利用が今年度の目玉。デジタル教科書についてはなかなか難しい状況。活用しているところとまだのところ、二極化している。先生たちがとにかく使ってみて、今年度一年考えていければ

【佐久市教委・菊池指導主事】

- ・佐久市ではタブレット導入に伴い各学校に月2回 ICT 支援員を派遣してきた。情報を吸い上げている。先ほどの松島校長の話のとおり、市教委、各校 ICT 担当、機器管理業者の三者で情報共有している。今年度は佐久市として ICT 推進計画を策定している。

【松本市教委・小川指導主事】

- ・全員に Google アカウント、MS のアカウントを渡している。遠隔オンライン授業も上手くいっている。
- ・デジタル教科書は半分くらいの導入状況。小学校のほうが活用が進んでいる。

【塩尻市教委・島津指導主事】

- ・全小中の授業を参観し、状況把握をした上で、情報活用通信という形で情報共有している。またスタディサプリを導入し活用している。ICT 支援員と連携し各校での要望を聞き活用について進めている。
- ・デジタル教科書は英語と技能教科をもう一科目入れているが活用状況把握はできていないため、情報教育推進委員会で情報共有していく。

【飯田市教委・櫻田指導主事】

- ・同時共同編集の先に深い学び。学習者用デジタル教科書の使用を目標としている。校務支援システムはクラウド型をトライアルで使用してみて予算化して進めていく予定。

【伊那市教委・中山指導主事】

- ・県の目標（同時共同編集意見交換）があったが、そのような取り組みのイベント（公開授

業)を計画している。

- ・デジタル教科書の準備が整ったところでこれから活用していく。学校によっては独自に入れているところもあるためアンケートによる調査を行っている。

【小海町教委・中島教育長】

- ・小海中が学びの改革実践校2年目となっている。また小海町に限らず南佐久郡でTamsによって連携しており交流授業等を積極的に展開していきたい。
- ・学習者用デジタル教科書の活用については小学校はまだ、中学校は2年目ということもあり相当程度使われていると思われる。ただ、ネットワーク環境が不安定のため、アクセスポイントを高性能なものに変えていく予定。

○児童生徒の画面管理について

【塩尻市立広丘小・波場教諭】

- ・児童の画面管理については「Apple クラブルーム」で管理したり、ロイロノートの機能で管理している。

【須坂市立東中・北原教諭】

- ・Google Workspace をプラットフォームとしている。現状、生徒の画面をモニタリングする機能はない。

【佐久市立中込中・瀬下教諭】

- ・佐久市は InterClassCloud(チエル社)を使用してモニタリングしている。生徒の画面は見られるは見られるが、ラグが多かったり繋がりにくかったりと今ひとつ使いづらさを感じている。(徐々に改善されてきてはいるが)

【長野市立朝陽小・舞澤教諭】

- ・正直管理は難しい。モニタリング機能はミライシード (Benesse) の中にはできるが、それ以外のアプリを使用している時はできない。前で指導するだけでなく、子どもたちの背中越しに画面をチェックすることも多々ある。

【長野市教委・中田指導主事】

- ・長野市は舞澤先生の話のとおりミライシードのソフトでは管理ができています。あとはApple クラブルームが児童の端末画面管理がしやすいらしいという情報は出てきている。iPadは小学校のみ使っている。

【松本市教委・小川指導主事】

- ・モニターとしてスカイを活用している。ただ実際にはそこまで画面管理を使用していない。そんなにいい機能なのでは。

【飯田市教委・櫻田指導主事】

- ・Google Workspace を使っているので、モニタリングは行っていません。情報モラル・セキュリティ教育を充実させて、児童生徒に任せられるようになってほしい。インシデント発生

時のためにログは集めている。

【東原特任教授】

- ・いわゆる先進地域では使っていない機能。大きな方向とすれば画面管理機能は必須の機能ではなくなる。本来は高校のプログラミング授業のための機能であるが、それ以外の利用に広まってしまった経緯がある。

【島田教授】

- ・学びの主体がどこにあるか。子供が学びの主体として考えるのであれば子供の責任で任せるというのもありかと。一斉授業の方法から学び・場の主導権を子供に渡していけるかがこれからの動き。自然に使わない方向に行くのかと思われる。学びの主導権が移っていると認識できれば先生たちも納得できるのでは。

【佐久市立中込中・瀬下教諭】

- ・理想と現実乖離しており、まだまだ生徒たちにとってはタブレット端末は授業以外で使える便利なものという感覚。

○クラウド活用による情報漏洩について

【東原特任教授】

- ・一般論だとセキュリティーポリシーのガイドラインを文部科学省は3回くらい変えている。当初は厳しめのガイドラインだったが、最近では運用方針が変わっており三層分離はやめて一層でやる（アクセス権等での管理）という方向。データの置き場もデータセンターではなくクラウドへという動き。
- ・文部科学省の示している方向に合わせて、都道府県・市町村の条例・規則等を変えていくということ、現場での先生・生徒に対する指導等を並行して行っていかななくてはいけないので大変だが、県内にも上手く行っているところもあるため参考にいただければ。

(3) 充実した利活用に向けた取組

1) 信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター

「令和4年度 GIGA スクール オンライン研修会 in 千曲市」

【佐藤准教授（松坂指導主事）】

- ・今週の月曜（5/23）に開催。延べ330人の参加。無料、予約不要、すべての資料等をクラウド上で公開という初チャレンジであったが好評いただいた。ぜひ他の教委とも連携してこのような企画を進めていければ。

2) 長野県 ICT 教育推進センター【出前講座】

【松坂指導主事】

- ・今年度は「教育クラウド進めてみよう」ということだが、過去2年間で100校近くで研修

させていただいている。研修をする際の一つの材料にさせていただければ。受け付けは各教育事務所で行っている。

3) 特別支援教育課【令和4年度の取組について】

○インクルーシブ教育部門の取組等について

【山際指導主事】

- ・今年度は教育事務所の指導主事、総合教育センターの専門主事の他に各校に ICT 活用担当者を置き、県下4地区にブロックリーダーを配置し体制を整えている。
- ・支援内容については個別最適な学びを支援してくため、児童生徒一人ひとりに応じた支援をして参りたい。長野県インクルーシブ教育推進協議会と連携し学校種を超えて学び合いができれば、年度末には事例を広く紹介していきたい。

【両川先生】

- ・今の説明のように進めていければ。例えば車いすは一人ひとりカスタマイズされているが、将来的には ICT も一人ひとりに合わせたカスタマイズが必要になってくる。それを見通して、児童生徒の現状把握を協力して収集していただき今後につなげていきたい。

4) 学びの改革支援課 教科書係

○令和4年度デジタル教科書実証事業の現状とリーフレットの活用について

【荒井指導主事】

- ・令和4年度のデジタル教科書実証事業に係る予算については文科省において増額となっている。
- ・昨年度アンケートを行ったところ、デジタル教科書のメリットはいろんな情報を集めやすい、図や写真が見やすい、資料が見比べやすいといった点が挙げられた。
- ・また、デジタル教科書を使用することによって授業が楽しくなったという意見もある。
令和4年度は英語は100%、2教科目は8割弱が希望。今後は国の動向としてアンケートの実施として学習用デジタル教科書の活用を推進していきたい。

(4) 今回のまとめと次回検討項目の整理

(授業改善や児童生徒の資質・能力に役立つ実践事例の報告や紹介、情報交換)

【島田教授】

- ・紙の教科書とデジタル教科書どちらが良いかと聞かれることがあるが、どちらでも良いというのが私の答え。デジタル教科書の良さは使ってみなくてはわからない。最終的には紙の良さもあるため、環境等によって選択していけばよいのではないかと。ただ、今の段階ではとりあえずデジタル教科書を使ってみるというのが重要。

【東原特任教授】

- ・小中比較すると中学校に多いが、一斉授業の形式から抜け出せていない。授業形式を変えることが目的ではなく、子供たちのどのような力を育てたいか、そのためにはどのようにしていくかを考えながら情報共有していくことが必要。
- ・併せて、学校差、クラス差によってつながっていく。中学校の場合は教科担任のためいろんな先生の授業を受けられるが、小学校は1人の先生が全て教えていることが多いためクラス差が顕著。
- ・特別支援教育もGIGAスクールの対象だが、特別支援学校からは文科省のアドバイザー事業に質問が来ていない。問題がないということであればよいが、手が付けられていないと思われる。そのため、今年度特別支援関係のアドバイザーを増強して対応しようとしているところ。

【両川先生】

- ・今年度、GIGAスクールのアドバイザー事業を使ってもらった計画を立てているため、今の特別支援関係の話はうれしい。
- ・デジタル教科書、アクセシビリティの問題も含め専門的な多様性に応じるということを現場から発信していければ。

(5) 閉 会

【白井義務教育指導係長】

- ・先生方のお話を聞きながらこちらも考えさせていただいた。昨年度は同時共同編集を目的にしており、今年度はそれを活用した意見交換。子供たちの考えの形成、思考の過程に食い込んでくる。実際の授業でよりよく使っていくためには踏み込んでいかなければならないところ。
- ・デジタル教科書は使ってみなければしょうがないということで、使ってみていただくというのが重要。進んでいるところとそうでないところの差があるが、進んでいるところの事例を紹介していくとともに、陸上でいう周回遅れの状態を作らないよう困っているところを何とか支援していきたい。
- ・また、佐久市の事例として教委、学校、業者の連携の話があったが、学校の中だけでは解決できない。ICT教育を進めていくということは社会に開かれた教育課程の実現に向かう糸口。学びの主導権が子供、という大切な認識もいただいた。
- ・今後も今回お集りの知見を持った先生方からご意見いただき進めていきたい。

(参考資料)

学習者用デジタル教科書イメージ (文部科学省)

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/02/12/1407728_001_1.pdf

学習者用デジタル教科書の制度化に関する法令の概要 (文部科学省)

https://www.mext.go.jp/content/20210325-mxt_kyokasyo01-100002550_01.pdf

学習者用デジタル教科書ガイドブック (教科書協会)

<http://www.textbook.or.jp/publications/data/191030dtbguide.pdf>

【印刷用】 学習者用デジタル教科書実践事例集 (文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/seido/1414989.htm#:~:text=%E3%80%90%E5%8D%B0%E5%88%B7%E7%94%A8%E3%80%91%E5%AD%A6%E7%BF%92,%E9%9B%86%20%C2%A0%EF%BC%88PDF%3A3992KB%EF%BC%89

【Web 閲覧用】 学習者用デジタル教科書実践事例集 (文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/seido/1414989.htm#:~:text=%E3%80%90%E5%8D%B0%E5%88%B7%E7%94%A8%E3%80%91%E5%AD%A6%E7%BF%92,%E9%9B%86%20%C2%A0%EF%BC%88PDF%3A3992KB%EF%BC%89